

第 1 回まちづくり推進検討委員会 － 議 事 録 －

日時：平成 22 年 12 月 3 日(金)

15：00～16：30

場所：大月市民会館 4 階 視聴覚室

1. 開会

【事務局】

- ・ 本日はご苦勞様です。定刻を過ぎましたので、只今より平成 22 年度第 1 回まちづくり推進検討委員会を始めさせていただきます。
- ・ まず、はじめに、大月市長石井由己雄からご挨拶をいただきます。

2. あいさつ

【市 長】

- ・ 皆さんこんにちは。
- ・ 今年も残り 1 カ月を切ったという中で、師走の忙しい中ご参集いただき、大変ご苦勞様です。
- ・ まちづくり推進検討委員会は、大月駅周辺整備事業を円滑に進め、賑わいのあるまちづくりを実現するために、平成 19 年の事業開始時に設置された。
- ・ 皆様のご協力をいただく中で今年 4 年目を迎えた。
- ・ 用地の関係はご承知の通り一部を除いて終わった状況であるが、県道の工事と駅前広場の工事が着々と進められており、特に駅前広場の工事は今年度、来年度の 2 ヶ年で行う予定となっている状況である。
- ・ すでに移転を完了し、新しい暮らし、力強い営業が再開された様子の中で、生まれ変わる町並みに対し、期待が大変高まっているという状況であろうと思う。
- ・ 今年度のまちづくり推進検討委員会の議題では、作業部会において、来年度行われる社会実験の内容について、具体的に検討されてきた内容について、再度検討をお願いしたいということである。
- ・ 駅前広場を中心とした賑わいづくりをテーマとする作業部会では、駅前の夕市事業、それから大月コンシェルジュ事業、商店街を中心とした賑わいづくりをテーマとする作業部会では、おもてなしストリート事業、街なか魅力発見事業、大月軽トラック市事業というように、活発な議論の末に 5 つに絞られたということである。
- ・ いずれにしても、この大月の駅が中心となる今回の整備が完了すると同時に、この商店街の活性化 あるいは地域全体の活性化という事を、これから目指していかなければいけないという状況だろうと思う。
- ・ 地域の皆様方にもこの活性化に向けての大きな動きがあるとのことであり、それぞれ地域間の連携という事の中では、他の街との関係という事もこれから考えていかなければならないと思う。

- ・ また、いろいろな産業との関係の中で、様々な情報ネットワークの中で、この大月市の活性化をさらに進化させていこう、という動きも、ますます進めていかなければいけない状況であると思っている。
- ・ こうしたものが成功して常設的に行われるように、市街地の賑わいが一日も早く取り戻せるような状況になることを期待しながら、皆様方の活発なご意見をいただき、素晴らしい会にしていだければと思っている。
- ・ そのようなことの中で、会の冒頭の挨拶とさせていただきます。本日は大変ご苦勞様でございます。

【事務局】

- ・ ありがとうございます。
 - ・ このあと大月市長は公務のため退席をさせていただくのでよろしくお願ひしたい。
 - ・ つづいて、まちづくり推進検討委員会の委員の交代がされているので、紹介をさせていただきます。
- (委員紹介)

3. 正副委員長の選任について**【事務局】**

- ・ 委員長ならびに副委員長の選任をいたしたいと思いますがいかがか。

【委員】

- ・ 事務局一任としたい。

【事務局】

- ・ 事務局一任ということなので、委員長に流通科学大学の西井和夫先生、副委員長に大月市商工会の会長 平井誉様に昨年に引き続きお願ひをしたいと思う。

【委員】

- ・ 了承。(拍手)

【事務局】

- ・ 前の席にお願ひしたい。
- ・ それではここで一言ずつ委員長さんと副委員長さんに挨拶をいただきたい。

【委員長】

- ・ 昨年より引き続き、この委員長職を仰せつかりました流通科学大学の西井と申します。
- ・ 皆さんのほうでご存知であり、先程、市長のご挨拶の中にありましたように、来年度、このまちづくり推進検討委員会の方から、社会実験をしながらまちづくりの事をさらに考えていきたいと思いますという中で、特にこの駅前整備という事で交通環境が改善されたのを機会に、より多くの人に魅力的な大月市に来ていただきたいということで、これまでの様々な作業部会、あるいはその前身である検討委員会のワーキングの中で、いろんなアイデアを出していただいた。
- ・ 来年度はそれを社会実験という形で実施していこうということで、本日、その作業部会のほうで提案された企画案件があがってきているので、これを中心に皆さんと検討委員会として合議をしていただければと思っているので、よろしくお願ひをいたします。

【副委員長】

- ・ 大月商工会の平井でございます。
- ・ 昨年に引き続き副委員長ということであるが、委員長さんには遠くから、わざわざお越しいただいて大変ご苦勞様でございます。
- ・ 来年度は最終仕上げになろうと思っている。
- ・ 委員長さんのご指導をいただく中で、皆さんのご希望を取り入れ、なんとか素晴らしい駅前に仕上げたいと思っている。
- ・ どうぞよろしくお願いいたします。

【事務局】

- ・ ありがとうございます。
- ・ 本日はまちづくり推進検討委員会の作業部会の委員の方が後方で傍聴しているので、ご了解をお願いしたい。
- ・ 議事に入る前にお手元の資料の確認をお願いしたい。
(資料の確認)
- ・ それでは、西井委員長、平井副委員長、よろしくお願いいたします。

4. 議事**【委員長】**

- ・ それでは次第に従って進行させていただく。まず、昨年度の第 3 回の検討委員会の議事録および昨年度のまちづくり推進検討委員会の活動報告ということで「資料 1」および「資料 2」「資料 2-1」が皆さんのお手元にあるかと思う。
- ・ 今議題との関連性もあるが、できるだけ今年度の活動計画案等の関連あるいは、その作業部会の検討経緯等に時間を使っていきたいので、21 年度の議事録・報告、そして 22 年度の活動計画案の「資料 3」まで簡単に事務局のほうからご説明していただければと思う。よろしくお願いいたします。

【事務局】

- ・ それでは、「資料 1」～「資料 3」について説明させていただく。
- ・ 「資料 1」の平成 21 年度 第 3 回まちづくり推進検討委員会議事録は、司会から説明があったように、議事録は委員の皆様事前に配布をさせていただいた。
- ・ 内容についてはまちづくり推進検討委員会の活動報告と重複する部分があるので、活動報告と併せて説明をする。
- ・ 「資料 2」平成 21 年度まちづくり推進検討委員会活動報告についても、事前に配布させていただいた。
- ・ 1 ページ捲っていただいたところに表があるとおり、検討委員会は全部で 3 回開催をされている。
- ・ 第 3 回の内容は、その表の欄にあるとおりの報告事項、協議事項があり、報告事項として、第 2 回まちづくり推進検討委員会の議事録について行い、承認をいただいた。協議事項としては、「賑わいづくりのための具体的な事業案について」、また、「作業部会の立ち上げについて」という二つについて協議をしていただいた。
- ・ まず、賑わいづくりのための具体的な事業案については、「資料 2」の 6 ページにあるよ

うに駅前を中心とした賑わいづくりが 5 事業、それから、商店街を中心とした賑わいづくりが 6 事業、提案されて議論をしていただいた。

- ・ 作業部会の立ち上げについては「駅前を中心とした賑わいづくり」、「商店街を中心とした賑わいづくり」、それぞれを検討していただくために、A・B、2 つの作業部会を立ち上げるということが提案され、承認された。
- ・ この作業部会の設置要綱が「資料 2-1」になっている。
- ・ 平成 22 年度はまちづくり推進検討委員会の下に 2 つの作業部会を設けて賑わいづくりのための様々な検討をしていくということでした。
- ・ それから、「資料 3」の平成 22 年度 まちづくり推進検討委員会活動計画案については、検討内容の欄にある「○」印が報告事項、「●」が検討事項となっている。
- ・ 本日の内容としては、21 年度のまちづくり推進検討委員会の活動報告、22 年度の活動計画案、それからその後、22 年度の作業部会の検討の経緯について、それを報告いただいた後に、社会実験の企画書の案について検討していただきたい。
- ・ その検討の結果、再度作業部会に差し戻すという必要が生じた場合は、12 月の中旬にもう一回作業部会を開いて、その結果を持ち寄り、第 2 回の検討委員会を来年 2 月の中旬に開き、結果のまとめの作業を行うという予定である。
- ・ 簡単ではあるが、以上で説明としたい。

【委員長】

- ・ ありがとうございます。
- ・ 事前に送られた資料があり、「資料 3」の活動計画案につきましては、本日お配りしたかと思うが、皆さんのいろいろなご意見の中で作業部会 A・B を 2 つ設置して、それぞれのこれまでやってきたテーマ・事業について議論していただくことを 22 年度の主要な作業内容として定めたということである。
- ・ 活動計画についてはそれに基づいたスケジュールということで、本日が第 1 回の検討委員会ということである。
- ・ 年度末までの間に、来年度実施する社会実験の実施計画案というのを埋める必要があるので、第 2 回の検討委員会を 2 月中旬に予定している。
- ・ 今日の皆さんの審議や各企画案に対するご意見等で作業部会を更に再度開く必要があれば、12 月中旬に行うという活動計画案になる。
- ・ よろしいか。

【委員】

- ・ 異議なし。

【委員長】

- ・ それでは、一応この活動計画案に基づいて、今年度を行うということを検討委員会にお認めいただいたということとしたい。
- ・ それでは、次の議事の項目に先程の説明にあった作業部会の平成 22 年度の検討経緯を、A 部会、B 部会、それぞれ部会の部会長または代理の方から報告と併せて企画書の説明をしていただきたい。
- ・ まず A 部会の石井先生の方からご説明をしていただきたい。

【委員】(A 部会 部会長)

- ・ A 部会の部会長をしております山梨大学の石井でございます。よろしくお願いします。
(資料 4-A 説明)
- ・ まず経緯は、先程の「資料 2」の一番後ろについていたリストをベースにして、具体的にどのようなものが社会実験として実行可能なのか、という事を数回の部会において議論し、最終的には 2 つに絞ったという流れになっている。
- ・ 具体的なものは「資料 4-A」の 2 枚で、ここに経緯があるが、基本的には毎回それぞれ検討をして議論をして、その中で実行の可能性について、それから特に重視したのが、主体を誰にするのかというところで、実際にやるときに誰が中心になってやるのか、というところを中心に議論をした。
- ・ 先程の「資料 2」の一番後ろにあるところ(リスト)で 5 つあるが、この内、なるべくまとめられるものはまとめてしまって、その中で最大限効果が出るようにしよう、というような事を考えた。
- ・ 最終的に残るのは夕市と 1 番のまちのコンシェルジュ事業の 2 つが残ったが、3 番の夕市については朝市・夕市と書いてあるが、最終的に夕市だけが残っている。
- ・ 夕市に関しては、駅広コンサートであるとか、駅広移動店舗の活用事業みたいなものとも組み合わせられるのでは、ということで、場合によっては夕市の中にそういうものを組み込んでいくと考えた。
- ・ それから、5 番のウォーキングトレイル整備事業というものは、まちのコンシェルジュの中に、街中を紹介(案内)するコンシェルジュと山の方面に関して紹介するコンシェルジュの 2 通りをおいたらいかかかという中で、5 番も関連させて、その中に組み込んでいくことになり、それらを併せて結局 2 つになっている。
- ・ ただし、大月短大の学生さんの方から 1 つ提案があり、「資料 4-A」の最後に書いてあるが、小山田さんのキャラクターを作って町おこしが出来ないだろうか、という意見を出していただき、そのアニメキャラクターで上手いものが出来れば、これから活用していこうじゃないかという話になっている。
- ・ 大月短大の学生さんの間で少し議論をしていただくということになり、その熟度によっては、これもこの事業の中に入ってくることも想定した結論を出している。
- ・ 具体的な内容について「資料 5-A-1」「資料 5-A-2」を使い、ご説明したい。
(資料 5-A-1 駅前夕市事業 企画書(案) 説明)
- ・ まず、1 つ目の駅前夕市事業であるが、難しいのは、まず駅前広場の工事が続いているため、こういうことが出来るようになるのが来年の 8 月からということなので、そのころから始めるということを考えて。
- ・ また、主体としては商店街、一般の方、「(小林さん)」と書いてあるが、ここの委員をされている小林さんをお願いするということと、この事業の対象とする人は誰かという点については、来街者・外から来られた観光客とか市外の方、また、市民の方を対象にするということとした。
- ・ 期間は、広場の工事のスケジュールの関係で、23 年の 8 月～10 月とし、各月の土曜日のうち 1 回、計 3 回を開催するという事を考えている。
- ・ 具体的な内容は、資料にあるとおりである。

- ・ 16年～18年まで行われた「夕やけ市場」をベースにこれまでの野菜等の販売に加え、周辺飲食店の加工済み食品等の販売を行うということで、さきほどお名前が出た小林さんはこの「夕やけ市場」をやられていたということで、小林さんをお願いしようということになった。
- ・ 大月駅周辺を案内するための街歩きマップを作成し、夕市へ訪れた客に配布するという部分は、実は、まちのコンシェルジュの方とも関係がある。
- ・ 夕市及びグルメフェアの開催時に、来街者を案内・誘導するためののぼり旗の作成を行うというところで、グルメフェアというものがでてきているが、これは大商協の飲食部会からのご提案があり、ここの夕市の中でそれなりの役割を果たしたい、または自分たちの活動とこれとのコラボレーションを図りたいという事で、このような内容が入っている。
- ・ 夕市へ訪れた客を近隣店舗に誘導するために、割引チケットの配布を行うということも、飲食部会さんの方からのご提案である。
- ・ この社会実験の目標は、夕市開催時の駅前エリアへの来訪者数の増加および来訪者の満足度の増大、夕市及びパンフレットでの商店や飲食店等のPRによる、その後の利用者の増大、それから、夕市を継続して運営していくための組織づくりである。
- ・ これは、この部会での議論の中で、今回の社会実験が実験だけで終わらずに、その後の街の活性化の活動に繋げていくためにはどうすればいいかということが随分話題になり、その中で、組織づくりも行っていきたいという事にした。
- ・ それに対して、どういう評価をするかの評価項目が挙げられている。
- ・ 割引チケット使用による来店者数の調査については、夕市の中での来店ということではなく、その割引チケットが使えるお店でという意味である。
- ・ それから、ここには書いてないが、猿橋の方でも市をやっているのだから、そのあたりの関係付けで、出店者の関係をどうしていくのかというような事が話題に上がった。
(資料 5-A-2 おおつきコンシェルジュ事業 企画書(案) 説明)
- ・ もうひとつ大月コンシェルジュ事業の目的は、商店街や交通事業者の誰もが、来街者が求める情報を提供できるようにするという事で、ここに交通事業者と書いているのは、主にタクシーの運転手およびバスの運転手の方々という事を考えている。
- ・ 主体としては、商店街、それから天野さんをお願いしたいということになっている。
- ・ 対象は主に来街者で、観光客・市外在住者を考えている。ここで、市民と書いてある対象は市民に案内をするという意味合いよりも、どちらかというと市民の皆様にもコンシェルジュになっていただいて、街の方・市の方全員で来られた方を歓迎しようというような意味合いの方が大きいと思う。
- ・ 具体的内容については、先程イントロダクションとして申し上げたが、まちのコンシェルジュ、やまのコンシェルジュということは、街中を紹介する人と山の方ということである。
- ・ このコンシェルジュの事業では、案内するという事自体よりも、そのコンシェルジュというシステムを確立するための準備段階のような意味合いが強いと理解している。
- ・ 評価の項目にある、各コンシェルジュの話し合いへの参加人数の調査というのは、コンシェルジュをどうするかという話し合いのことである。

- ・ このような2つの事業について企画を立てた。以上である。

【委員長】

- ・ ありがとうございます。
- ・ それでは作業部会 B の方の検討経緯と B 部会の方から出されています企画書案のご説明についてお願いいたします。

【委員】(B 部会 部会長代理)

- ・ 大月商店街の小俣と申します。
- ・ 本日は部会長の永岩先生の都合が悪く、出席ができないという事で、代わって報告をさせていただきます。

(資料 4-B 説明)

- ・ 作業部会 B の活動経緯であるが、3 回の作業部会を開催した。
- ・ 第 1 回の中で昨年度の項目 6 項目の検討及びそれ以外の項目の提案がなされ、主にパワースポット、あるいは軽トラック市等の新しい提案が出された。
- ・ 第 2 回の部会においては、おもてなしストリート事業、回遊性創出、大ツキ軽トラック市という、この 3 つの項目の提案が出された。
- ・ 「おもてなしストリート事業」は、昨年度の項目の商店街を中心とした賑わいづくりの 5 番目「人・物・心を運ぶサービス事業」の関連として提案された。
- ・ 「大ツキ軽トラック市事業」は昨年度の項目の「オープンモール事業」あるいは「連携型地産地消ショップ事業」の関連として提案された。
- ・ また、「回遊性創出事業」ということで、大月駅前が整備され、そこからどのように既存商店街への流れ、回遊性をつくるか、という事で、本日の提案では「街なか魅力発見事業」というタイトルに変わっている。
- ・ そして、第 3 回目にはそれまでの修正・検討を行ったものの修正が提案され、本日の検討委員会の結果を見て、早急に準備会を進め、作業を実施していきたいという事が確認された。

- ・ 以上が経緯である。

(資料 5-B-1 説明)

- ・ つづいて、3 つの提案を説明させていただきたい。
- ・ 「おもてなしストリート事業」は、山梨県が「おもてなし条例」を作るという事が、たまたま先月新聞報道でもあった。
- ・ 我々はかなり早くから「おもてなしマインド」として提案していたので、県とどのような形で連携ができるかという事が出てくると思う。
- ・ 主体はもちろん商店街であるが、いずれは駅周辺の住民、あるいは近隣の住民も含めた市内全域の方も「おもてなし」の主体になっていき、「おもてなし」を通じて、来街者に「いい街だな」と思ってもらえるようにしていきたいと思っている。
- ・ 内容 1-①では、「おもてなしステッカー」の作成・掲示をすることで、お客様も気楽にサービスが受けられるようになり、商店街も周りもこのことを積極的にやっていくという位置づけになると考える。
- ・ 内容 1-②の街めぐり案内は、先程の石井先生の説明にもあった「A 部会」の「コンシェルジュ事業」とも重なるし、次に説明する「街なか魅力発見事業」にもつながっていく

ものである。

- ・ 評価項目の5番目の、「ミステリーショッパー」については、次に説明する「街なか魅力発見事業」のモニターによる「おもてなし度の評価」を行い、達成しているか、してないかという事により、改善をしていくということを考えている。
- ・ そして、その他の項目で特に課題としては、「おもてなしベンチの設置」の場所が、私有地等でないと採せないというあたりが課題であると考ええる。

(資料 5-B-2)

- ・ 「資料 5-B-2」を先に訂正させていただきたいが、入力ミスで項目が飛んでしまっている。
- ・ 「目標」という枠に「1.」「2.」「3.」とあるが、「1.」の「目玉となる、観光スポットの発掘と新商品開発を実現する」を「2.」にさせていただき、「2. 地域資源を発掘し、、、」という項目を削除させていただきたい。
- ・ そして新たに、「1.」に「街なか散策マップにより回遊性を図る」という項目を入れていただきたい。
- ・ 目標の「1.」が「街なか散策マップにより回遊性を図る」、「2.」が「目玉となる、観光スポットの発掘と新商品の開発を実現する。」、「3.」はそのままである。
- ・ 対象者は来街者全てであり、「①」で「登山・ハイキング」「②」で「観光客」とあるが、大月市はかなり広く、七保や笹子などの方で、大月の街中の事を知らない方もかなり大勢いらっしゃると思われるので、街へ来て魅力を発見していただきたいということでは、市民全体も含んでいくのかと思う。
- ・ 内容 1 については、駅から商店街への回遊性を図って、いかに大月の街の賑わいを出すか、中心商店街の賑わいを取り戻して、大月の街へ行ってみたいという気持ちにさせるような状況に持っていく事を考えている。
- ・ 内容 1-②では、散策マップには特に大月の「大きい月」にちなんだ商品、大月〇〇とか大月団子とか、「大きな月のような〇〇」というようなものを開発、あるいは調査し、散策マップに取り上げていくということを考えている。
- ・ 内容 1-④では、商店街の会議の中で、既にこういう形で(ここで資料を掲示) 富士山の街中からのビューポイントというマップを 5 月に作成してあり、これをもう少し進化させて、より対外的に魅力あるマップにするようなことを考えている。
- ・ 内容 2-①については、4月30日の山日に山梨県立博物館の館長さんが書いた「古代史の窓」という記事の中で、「都留郡の地名起源」が平安時代の官学書に載っているということが紹介されていた。
- ・ この中に
「かひの国のつるの郡に菊おひたる山あり。その山の谷より流るる水、菊を洗ふ。これによりて、その水を飲む人は、命ながくして、つるのごとし。仍て郡の名とせり。彼国風土記にみえたり。」という文章があり、地元の人に聞いたところ、菊花山には3箇所ほど清水場があるということがわかり、今はかなり枯れかけているが、これを上手く復元して、歴史的なところにできないか、ということでここに載せてある。
- ・ 内容 2-②では、今全国的にパワースポットということが、若い女性を中心に非常に話題になっており、大月の各神社には櫻の大木が多いということもあり、その櫻から大月の名所が出てくるという事があるため、それを含めてPRしていこうと考えている。

- ・ 内容 3 の「調査隊ミステリーショッパー」では、100 名まで集められるか難しいところはあるが、人数的なことは今後検討していくとして、そのモニターに、観光スポット、あるいは商店等を廻っていただいてそのアンケートを出していただき、それをもとにマップの変更、あるいは商品の見直し等もやっていくということを考えている。
(資料 5-B-3 説明)
- ・ 続いて、3 つ目の提案・企画書であるが、オープンモールということで、歩行者天国をつくる事によって、大月の中心地に大勢の人を集客したいということである。
- ・ 「大きな月を呼ぶ」「大ツキ”軽トラ市”という名称でいったらどうかという案が出ている。
- ・ 内容 2 として、開催時期は来年の 9 月～10 月、土曜の午前と土曜の午後と書いてあるが、これはまだ決定しているわけではなく、どちらをした方が効果的なのかという事も調べて行ったらどうかということである。
- ・ そして、24 年からは 5 月～10 月ぐらいまでにかけて月 1 回程度、毎月というわけにはいかないかなと思うが、その程度と考えている。
- ・ 内容 4 については、もちろんこれには商店街の加盟店も積極的に出店、あるいは出店しない店についても、どのようにしたら軽トラ市から商店に入るか、あるいは駅前の方も含めて、どのように回遊性を図っていくかということも、検討をして行く事になるかと思う。
- ・ 目標の 1 回あたりの軽トラ 50 台とあるが、もっと 100 台くらいまで集められないかということも考えており、それによって、最大の軽トラ市という事にしていければと思っている。また、集客数についても、できたら 4～5000 人くらいまでは集めたいと考えていて、集める手法については、今後積極的に考えて検討していくということを考えている。
- ・ その他の 1 では、軽トラ市の事例としてあげている宮崎県の川南町などでは口蹄病の影響でトラック市が中止されたという報道があったくらい、かなり大々的にやっている。
- ・ その他の 2 では、社会実験の 1 年目、あるいは 2 年目の実績を見て、今後検討していくようになるかと思うが、初年度、2 年目も含めて、空き店舗を軽トラ市以外にも埋められないか、使えないかということも検討できるかと思っている。
- ・ その他の 3 については、交通止めの許可について 9 月上旬、11 月の下旬に国土交通省、警察署に説明をしに伺っている。
- ・ 以上、雑ぱくではあり「A 部会」と「B 部会」で重複する部分もあり、今後もう少しすり合わせもしていかななくてはいけないかな、とも思う。
- ・ 特に我々とする、駅がきれいになった事によって、駅前だけで購買行動が終わってしまうということではなく、既存商店街の方にも広がりを見せ、街がにぎやかになるということを考えていかなければならないかなと思っている。
- ・ 大月の街が本当に賑わって、市内全域の方、あるいは隣街の方々が「大月に行ってみようよ」「大月の商店街に行ってみようよ」というような、そういう街にしていきたいなと思っている。
- ・ 最後になるが、この商店街では早くから賑わいづくりの展開を開催しており、コンセプトを「おもてなしマインド」として「おもてなしの心」を全面的に打出していこう、また、大月というこの地名、「大きなツキを呼ぶ大月」ということで「ラッキーシティ大月」

という事を全面的に打出していけないかということも考えているので、よろしくお願ひしたい。

- ・ 以上である。ありがとうございました。

【委員長】

- ・ ありがとうございました。
- ・ 今の 2 つの部会の今年度の検討経緯については、おそらく、分かりやすく説明していただいたので、何か検討経緯の中でご意見、ご質問はあるか。
- ・ もしなければ、その具体的な企画案についての意見交換の時間に移りたいと思う。
- ・ よろしいか。

【委員】

- ・ 異議なし。

【委員長】

- ・ それでは A 部会からが 2 つ、B 部会からが 3 つのそれぞれの企画書が出ており、今の説明の中で、特に「コンシェルジュ事業」に関しては、案内情報という部分のメニューの内容なので、「おもてなしストリート事業」の中の街めぐり案内実施などとも係わり合いがあるという事の説明があったようである。
- ・ 相互に関連あるいは重複している部分は当然あるかと思うが、基本的にそういう意味では他事業との関連性が多い「おおつきコンシェルジュ事業」のほうからご意見をいただくようにして、他事業でコンシェルジュに関係する部分は、そちらでとりまとめなり実施計画をしていただくというようにしてはどうかと考える。
- ・ 作業部会の部会長さん達は、今後実施計画を立てていくときに、重複する案について、企画の取りまとめをするということについては何かご意見はあるか。

【委員】(A 部会 部会長)

- ・ A 部会としては、合同部会も行ったので、その時点で色々重なるものがあると承知しており、情報の提供をしあうということと、企画的に色々なところでバラバラのものをつくっても仕方ないので、まとめたもので、なるべく効率よくやろうという方向で考えている。

【委員長】

- ・ そうすると企画のとりまとめは実施計画案をつくる段階の時に、それぞれの事業の中で、例えばコンシェルジュに関係する部分については、その連携をどういう形でつくって書き込んでいくということにするか、あるいは、コンシェルジュの方にもう集約してしまうか、という事を検討委員会の方で調整させていただくという風に、今の時点ではしておくということによろしいか。

【委員】(A 部会 部会長)

- ・ それで結構である。必要な情報のやり取りは B 部会の方とする。

【委員長】

- ・ それを最初に私の方で気になったもので、確認しておきたかったのです。さて、それぞれの今の説明を聞いて、各企画書について「この点はどうなっているのか」、内容について等、ご質問を含めて、ご意見いただければと思う。
- ・ 私の方からは、夕市の目標にもあるが、夕市を継続して運営していくための組織づくり

というのはやはり一番の大きな課題ではないかと思う。

- ・ 評価項目を見てみると、来街者の人数調査をするという事になっているのだが、これは出店者へのアンケート調査を通じて、この担い手の継続性というか、あるいはどういった工夫や組織づくりが必要かということ、調査するために出店者へのアンケート調査というものを評価項目にされているのか。
- ・ そのあたりの目標 3 をどう評価していくかということについて、企画書の段階で考えている内容をもう少し説明していただければと思う。

【委員】(A 部会 部会長)

- ・ ここの組織づくりのところ、つまり担い手は誰かというところが一番の問題で、社会実験だけであれば何とかなるが、という話で、出店者へのアンケートということについても、とにかくこの事業を継続していくためにはどうすればいいか、というような情報収集集であって、当然そのなかには、どのような組織が主体となってやっていったらいいかというような事を情報として得るということを含めているが、現時点で具体的に、そのアンケートの内容のなかに「組織」について直接話を聞くというようなことはとりあえずは考えてはいない。

【委員長】

- ・ やはり、ビジネスとして考えればこういった夕市事業でお土産が出て、ある程度持続可能になれば、その出店者は、個人的には事業継続という形になるだろうし、ただ、その時には特にコストの部分で、やはりこういった事業全体で賄っていくべきものと、個店の部分で考えるコストについて、おそらく継続性の中で、出店等を含めて考えなければいけない損益を産むための増減が判断材料になるのではないかと思う。
- ・ そういったときに、個々のお店で経営努力として出来る部分、それからやはり全体として取り組むことで、そういった障壁(出店リスク)を乗り越えていく部分と、その辺の課題をはっきりさせていただければ、継続性・持続性という部分はかなりはっきりしてくると思う。
- ・ もちろん何よりも、お客さんが来ていただいて、売り上げ等にビジネスとして成り立つということであれば、やはりボランティアでやっているわけではないので、そういったところがやはり重要なと思う。
- ・ 実施計画の中で、こういった形でそのアンケートの仕方なり、あるいは設問の仕方をどう絞っていくか、その辺をまた検討の中に組み込んでいただければと思う。
- ・ 他の方で、他の事業でも構わないので何かご意見やご質問があるか。

【委員】(国交省)

- ・ 「資料 5-B-3」の内容にあるが、国道 20 号の通行止めという事で、この場で本当は回答しようと思ったのだが、今、大月出張所の方で判断がしきれなくて、まだ結論が出ていないので、通行止めに出来るのかとか、ちょっと頻度を落とすしてくれないかとか、その辺を踏まえて、また大月市のほうに、後日連絡をしたいので、よろしくお願ひしたい。
- ・ それとあわせ「資料 5-B-1」の「おもてなしストリート」内容 2-2 の中に「駅周辺・歩道、オープンスペースへ設置」という事で、これについても以前お話をいただいているが、国道 20 号、大月市内のところは歩道が狭く、一般の方が通れる幅員というところの制限があるので、椅子を除いて有効幅員で 2m 欲しいというところがあるので、通行止めの時

と併せまして、具体的なものについては後日回答させていただきたい。

【委員長】

- ・ ありがとうございます。
- ・ 今のお話はやはり、その他の項目にあがっているが、企画書の雛形の問題ではありますけど、やはり、その他(項目)の中身は、今後解決しておかなければならない課題という点で、企画書の中でも実施をする際に残されている課題があるという部分も含めてあり、今ご指摘のあった「軽トラック市」の方は、やはり道路の占有許可という部分、それから、「おもてなしストリート」の方も、ベンチ等の設置場所の確保という事で、課題点としてはあがっているのだが、これは実施計画案を作成するまでに解消していただいた中で、また内容を検討していただくということになると思うので、その辺は B 部会の方で永岩先生方には是非お伝え願いたいと思う。
- ・ あと、それに関連して、私の方も「おもてなしストリート事業」の方の「ストリート」というのはどこの「ストリート」か、というように、具体的な場所をイメージされているのかお聞きしたい。
- ・ 例えば、一般的なイメージとして、商店街を「おもてなしストリート」という呼び名で呼んでいるだけだということなのか、「おもてなし」というキーワードのご説明はしていただいて、部会でこの事業をこのようにネーミングされたのだが、その後半の「ストリート事業」の「ストリート」というのはどんなイメージでご議論されたのか、教えていただきたい。

【委員】(B 部会 部会長代理)

- ・ これは、委員長が指摘されているように、これというものがはっきりはないが、商店街、あるいは街というような形で、ここを「おもてなしの街事業」とか、ただの「おもてなし事業」とかとする、ちょっとあまりにも一般的過ぎるかな、という事で、「おもてなしストリート」というとインパクトがあるだろうという、それほど強い…「こうだ!!」、というものはないが、一応は商店街、あるいは街というような、そんな感じと考えている。

【委員長】

- ・ 確認したかったのは、そういった一般的な名称でスタートした事業の中で、先程のベンチの設置場所等、具体的に公共空間の占有許可なり恒久的にそのスペースを、ある施設のために設置するという部分が入ってくると、どの部分をその事業の対象にするかという事を具体的に決めていかないと実施が出来なくなると思う。
- ・ コンセプトとしての、あの勘案としてのストリート事業という理解はしたが、具体的な実施計画案では、どの場所にとかどの位置にという事が明記されている必要があると思う。
- ・ そのあたりはご検討願いたいと思う。
- ・ 他にはいかがか。

【委員】

- ・ どちらにでも共通の事だが、受け入れ態勢というのは、企画書を見るとばっちりできているということになると思うが、その際に、市民には色々と告知の仕方はあると思うが、来街者に対しては、この社会実験するにあたってどのように告知をしていくのか。

- ・ また、来るにあたっては、電車で来るのか、車で来るのかというところも大事になってくると思うし、電車で来てくれる人ばかりではないので、車を置く場所などをアンケートの項目に入れて、実験後の参考にした方がより良い結果になると思う。

【委員長】

- ・ やはり、街来者といっても色々なタイプの方がいらっしゃるの、それは近隣の地域の人も含めて、大月市民ではないのだけでも、という人もいたりするので、それは通常の観光客とか登山者とは属性が違っているというケースもある。
- ・ それから、当然、同じ観光客でも電車を利用される人と、普段は車で、できれば車で来るほうが便利と考えておられる方が、駅前や商店街への利用ということを考える場合、どういった事が満足されれば、行こうとした目標になるかということもある。
- ・ そのような人たちは、こういう事業について、どういう判断をされているのかというのは、やはりそれぞれの事業について、調べておく必要があるの、もちろん個人情報に触れない形で、いろいろな属性は細かく切っておくという事が必要なと思う。
- ・ その関係でお伺いしたいが、「資料 5-B-2」の「街なか魅力発見事業」について、対象者は、一応「来街者」という形で「登山」「ハイキング」「観光客」となっており、事業の目的の中には「市民及び登山客を商店街に誘導し…」ということで、対象のなかに市民が入っても良いのではないかとということが挙げられた。
- ・ それと同じ事が、例えば「おもてなしストリート事業」の方は同じように対象者は「来街者」なのだが、対象が「近隣住民」や「観光客」が 50、30、20 の割合になっている(①近隣住民 50%②市内市民 30%③観光客 20%)ということで、「街なか魅力発見」の方は、企画の内容を見ると、やはり観光客が中心かなという風に見受けられるのだが、そうすると、事業の目的というのは、来街者ということに限定していいのか、「いやいや、市民・近隣の市民も是非入れたいんだよ」という意味なのか、そのあたりはいかがか。

【委員】(B 部会 部会長代理)

- ・ これについては、先程の対象者の項目の説明をさせていただいたときに「登山客」「ハイキング客」「観光客」および、ここには入っていないが「市民」も含むということで説明させていただき、特に大月は市が広く、大月の街中を知らない人も非常に多いということで、ここに本来だったら(対象者の)3番目に「市内住民」という事を入れておいたほうが良いかな、とは思う。

【委員長】

- ・ 私もそのほうが良いとは思いますが、この事業内容は少しマーケティング的な発想でいうと、誰をターゲットにするかという事が、やはりポイントになってくると思う。
- ・ 例えば、今のご説明でいうと、「来街者」および「市民」を入れたいということなのだが、やはりセグメントとしては、随分違うニーズになると思う。
- ・ どういったものに魅力を感じるかという部分が、共通な部分もあるのだけれども、それを使える使い方とか、先程のように車で来られる方とか電車で来られる方とか、おっしゃったように、やはりいろいろな人によって「使い方」も違ってくるので、この手のメニュー(企画内容)も来街者と市民とで、共通的に扱える部分と、そうではなく、やはり来街者に特化した形で、考えないといけないやり方、例えばイベントとか、それから旅行ツアー・パッケージみたいな部分に、こういったものを入れ込むとか、あるいは「散

策マップ」をどういう形でばら撒いていくのか、配布するのか、マーケットに露出させていくのかによっても、やっぱりマップの内容も少しずつ変えていかなければならないと考える。

- ・ そのあたりはもちろん社会実験を通してトライアルしていただくのだけでも、そのあたりの見込みを少し、最初から想定しておいたほうが、良い実験の成果が得られるのではないかと思う。
- ・ そのあたりをまた「実施計画」の中にも是非入れておいていただければと思う。
- ・ よろしいか。

【委員】(B部会 部会長代理)

- ・ その件について、確かに議論の中では、はっきりターゲットを絞るべきだ、ということを出ていて、市民なのか来街者なのか、そういう事をはっきりした方がいいのではないかという、意見もちろんあったのだが、やはり恒常的に来てもらおうとすると、比較的「市民」なのかなと考えた。
- ・ そして、先程のとおり、市民でも街中の事を本当に知らない、大月の街中にある神社の事なんかも全く行った事もない人も凄く多いので、実はこのような(資料掲示) 散策マップを5年ほど前に作った。
- ・ これは来街者にも差し上げており、市内の方もかなり興味を持って、これをいただきに来ていただいて、これをもとに散策していただいた方も非常に多い。
- ・ そんなことも考えると、一兎、二兎追うものという感じで、ちょっと中途半端ではあるが、両方にうまく対応できるようなものが作れないという風なところは思うところである。
- ・ もし何種類もマップを作れるという予算があれば、市内用と市外用という事も出来るかなとは思っているのだが、それは今後検討していく課題であると思う。

【委員長】

- ・ ありがとうございます。
- ・ あともう一つ、その仕掛けは来街者をメインにしながら、市民をこういった仕掛け(企画)やマップ作りに参画させると、要するに市民も、その情報を受ける側ではなく、大月市民は地元の事を、こういった山岳マップを作ったり、あるいはミステリーショッパーになったりということで、いわゆる「自らがその事業に参画する」という事で、マップをどんどん更新していきなり、それを自分で広げていく時に、わざわざ事業の主体側がお金をかけてやらなくても、そういう事に参画した市民が、常に伝え役になっていただけるようになる。
- ・ よって、対象としての「市民」なのか、一緒に巻き込む・関与させるための「市民」なのか、という事を考えていただいたほうが、やりやすいのではないかと思う。
- ・ また、その辺は検討してみたい。

【委員】(B部会 部会長代理)

- ・ 委員長のご意見のとおり、大勢の方に参加していただくという事で、実際このマップの各項目も大勢の人に参加していただいてつくっており、おっしゃるとおり、なるべく大勢の人に参加していただくと、「街なか魅力発見」だけでなく、また他の事業にも協力しようということも出てくると思う。

- ・ 組織づくりというものも大変大きな事と思っている。
- ・ それと、先程委員の方からの質問に対する回答であるが、告知については、実際に商店街でやっているイベント、あるいは夏に行なったかがり火祭りにしても、どのようなものでも「告知」という事が非常に大きな事になってきて、これによって成功するかしないかというものは、本当にかかっているという事は、非常に感じるどころである。
- ・ では、どのように大月以外の市民の方に告知するのか、ということは、いくつかの案は出ているが、これから、より色々な案を出して、「どのようにして大月の街に来てもらうか」という事を検討していこうという事は出ている。
- ・ ここ 1、2 年、笑点で三遊亭小遊三さんには、大月の街をいつも話題にさせていただいて、名前は全国的に知名度がアップしているが、まだまだ来た人はいないし、そういうことも含めて何かの良い媒体を使って、大月を売り出せないか、その一つに、こういうイベントがある、というような事の告知をどうにかしていけないか、という事を検討していこうという事も考えている。
- ・ そしてまた、大月に一度来た方には、駅前等で開催予告のパンフレット等を配るとか、そういうことも検討していこうという事は出ています。
- ・ また、色々なご意見ありましたら、ご提案いただければと思います。

【委員長】

- ・ ありがとうございます。
- ・ 他の皆さんの方からのご意見や、企画案についてのご意見はあるか。
- ・ 私はこの企画書案については、作業部会の方からの原案を、この検討委員会に出す前に見せていただき、当初はそれぞれの部会に 11 事業についての検討をお願いしているが、正直、これを全て社会実験するのは無理なので、なんとか上手く、実施可能性・実行可能性を考えながら、絞り込んでもらいたいというのが、まずは作業部会の部会長にお願いした事である。
- ・ そういったお願いをして、今年度の前半期の部分で、A 部会では 2 つ、B 部会では 3 つ、上手くそれぞれの事業を絞り込んでいただいたなど、いう風な評価をしている。
- ・ それで、是非こういった事業に関しては、来年度の社会実験を成功させて、さらにそれが継続できるよう形での取り組みを 2 年目以降にしていっていただければと思う。
- ・ そういう意味では、やはり社会実験をより充実したものにしておく必要があるために、実施計画をきちんと練り上げていくことが必要であり、今日は企画書の案だが、先程の 22 年度の検討委員会の活動計画にあったように、(平成 23 年)2 月に実施計画についての検討委員会での審議を予定しているので、その時に再度、メンバーの方にはご意見をお伺いするが、これらの社会実験の実施事業の実施計画案について、詳細な部分にも渡るご検討をお願いしたいと思う。
- ・ そういう意味なので、もし他に企画書について実施計画までに、もう少しこのあたりを検討してみてはどうかというような意見があるか。

【委員】

- ・ 特になし。

【委員長】

- ・ それでは、これまでご意見いただいた部分も含め、反映させた形で、それぞれの事業の

実施計画案の作成をお願いするという事で、この次回の検討推進委員会の方でそれを審議させていただくということでよろしいか。

- ・ それでは、5つそれぞれの企画書案についての審議を行ったので、議事をこれで終わりにさせていただきます。
- ・ 事務局の方にお返しする。

5. その他連絡事項

【事務局】

- ・ それでは、大変お疲れ様でした。
- ・ 「その他」ということで、何かあればここでお願いしたい。
- ・ なければ、閉会の挨拶を平井副委員長お願いいたします。

6. その他連絡事項

【副委員長】

- ・ 作業部会の皆様には、大変ご苦勞をおかけしまして、この素晴らしい企画を立てていただいた。
- ・ 今、委員長からも申されるように、もう少し絞り込んでいただきたいという事であるので、大変申し訳ございませんが、これから最後の絞込みを宜しくお願い申し上げ、これをもって閉会としたい。
- ・ 長時間に渡り、大変ご苦勞様でございました。

【事務局】

- ・ どうもありがとうございました。